

「児童生徒の学力状況」からみえる辰野町の児童生徒

1 小学校 6 年生

- (1) 国語 …… 全国平均・長野県平均とほぼ同レベル
低位生は少ないが上位生がもう一段階高いとありがたいが…。
- (2) 算数 …… 全国平均・長野県平均より若干高い
平均付近と上位生が多いが、低位生が孤立している。

2 中学校 3 年生

- (1) 国語 …… 全国平均・長野県平均とほぼ同レベル
平均付近の生徒が上位へ移行するとよいが…。
- (2) 数学 …… 全国平均・長野県平均より若干低い
平均よりやや上が少なく下が重い。低位生への支援が重要。

「児童生徒の学習状況・生活実態」からみえる辰野町の児童生徒

- 児童生徒は、4 択で回答。「①当てはまる」、「②どちらかと言えば当てはまる」、「③どちらかと言えば当てはまらない」、「④当てはまらない」から一つ選択。
- 下記の数値は、「①当てはまる」、「②どちらかと言えば当てはまる」の合計

1 家庭生活

(1) 規則正しい生活

① 「毎日朝食を食べる」

○小学生：辰野町 96.1% 全国 93.7% ○中学生：辰野町 94.9% 全国 91.2%

② 「毎日同じ時刻に就寝している」

○小学生：辰野町 82.7% 全国 82.9% ○中学生：辰野町 84.1% 全国 80.7%

③ 「毎日同じ時刻に起床する」

○小学生：辰野町 91.3% 全国 91.6% ○中学生：辰野町 97.2% 全国 93.5%

○例年、規則正しい生活を送ることができている児童生徒の割合が多く健全。若干（4～5%程）朝食を取らずに登校する子供がいることが気になる。給食まで頭や体は大丈夫だろうか。

2 自分自身について

(1) 自己肯定感：「自分には良いところがある」

○小学生：辰野町 84.3% 全国 84.1% ○中学生：辰野町 74.1% 全国 83.3%

○今年度の中学生：全国より 9p も低い、同生徒は 3 年前小学校 6 年生。小学校時代の同調査では、辰野町：72.3%で全国より 6p 低い結果が出ていた。中学校に入り大きく改善されていると言える。

○毎年高かった自己肯定感が 3 年ぶりに全国を大きく下回った。 原因はどこに？

② 「先生は、あなたの良いところを認めてくれているか」

○小学生：辰野町 89.7% 全国 89.9% ○中学生：辰野町 88.5% 全国 90.4%

③ 「困ごとや不安があるとき、先生や学校に相談できる」

○小学生：辰野町 73.3% 全国 67.1% ○中学生：辰野町 63.3% 全国 67.5%

○「先生は、あなたの良いところを認めてくれているか」に対して中学生が、わずか 1p ではあるが 3 年ぶりに全国を下回った、しかし、辰野町の中学生が「先生は認めてくれていない」と感じているわけではない。むしろ「認めてくれている」割合は昨年度より 1p ほど増えて全国より 2.5 ポイントほど高い数値を出している。「認めてくれている」と「どちらかと言えば認めてくれている」

の合計では町が低く感じるが、過去 3 年間を見ると、全国や県の「どちらかと言えば認めてくれている」の割合が年々上がってきていて、この部分が今年度は全国に抜かれたことになっている。

○小学生は 3 年連続よい状況。先生方を信頼している子供の割合が高いと言える。

自己肯定感

○過去の結果からも児童生徒は、認められて成長していくことが証明されている。今後の支援・指導の指針の一つとして「よさを認めていく」ことを大事にしていきたい。

○過去 2 年間高かった「自己肯定感」が、今年は小学生・中学生共下がり、小学生はほぼ全国と同じ結果に、中学生は大きく下がった。

- ①小学生 ・ R 6 年度の結果：辰野町 84.3% 全国 84.1%
 ・ R 5 年度の結果：辰野町 86.7% 全国 83.5%
 ・ R 4 年度の結果：辰野町 89.8% 全国 79.3%
 ・ R 3 年度の結果：辰野町 72.3% 全国 76.9%
- ②中学生 ・ R 6 年度の結果：辰野町 74.1% 全国 83.3%
 ・ R 5 年度の結果：辰野町 82.6% 全国 80%
 ・ R 4 年度の結果：辰野町 83.4% 全国 78.5%
 ・ R 3 年度の結果：辰野町 71.8% 全国 76.2%

④「将来への夢を持っている」

○小学生：辰野町 85% 全国 82.4% ○中学生：辰野町 61.2% 全国 66.3%

⑤「いじめはどんな理由があってもいけないこと」

○小学生：辰野町 94.4% 全国 96.7% ○中学生：辰野町 97.1% 全国 95.7%

⑥「人が困っていると進んで助けている」

○小学生：辰野町 89.8% 全国 92.7% ○中学生：辰野町 92.1% 全国 90.1%

⑦「人の役に立つ人間になりたい」

○小学生：辰野町 96.9% 全国 95.9% ○中学生：辰野町 95% 全国 95.2%

【過去 3 年間の状況】

○いじめはどんな理由があってもいけない。

- ①小学生 ・ R 6 年度：辰野町 94.4% 全国 96.7%
 ・ R 5 年度：辰野町 97.7% 全国 96.9%
 ・ R 4 年度：辰野町 98.3% 全国 96.8%
 ・ R 3 年度：辰野町 93.6% 全国 96.8%
- ②中学生 ・ R 6 年度：辰野町 97.1% 全国 95.7%
 ・ R 5 年度：辰野町 97.1% 全国 95.5%
 ・ R 4 年度：辰野町 94.9% 全国 96.4%
 ・ R 3 年度：辰野町 93.6% 全国 95.9%

○人の役に立つ人間になりたい

- ①小学生 ・ R 6 年度：辰野町 96.9% 全国 95.9%
 ・ R 5 年度：辰野町 97.7% 全国 95.9%
 ・ R 4 年度：辰野町 97.5% 全国 95.1%
 ・ R 3 年度：辰野町 95.5% 全国 95.9%
- ②中学生 ・ R 6 年度：辰野町 95% 全国 95.2%
 ・ R 5 年度：辰野町 95% 全国 94.6%
 ・ R 4 年度：辰野町 91% 全国 95%
 ・ R 3 年度：辰野町 93.6% 全国 95.4%

※R5:辰中の PC 不具合により項目により数字なし

○人が困っていると進んで助ける

- ・ R 6 年度：辰野町 89.8% 全国 92.7%
 ・ R 5 年度：辰野町 95.3% 全国 91.6%
 ・ R 4 年度：辰野町 94.9% 全国 88.9%
 ・ R 3 年度：辰野町 87.7% 全国 88.7%
- ・ R 6 年度：辰野町 92.1% 全国 90.1%
 ・ R 5 年度：辰野町 92.1% 全国 88.1%
 ・ R 4 年度：辰野町 89.8% 全国 88.4%
 ・ R 3 年度：辰野町 88.5% 全国 88.5%

○将来の夢を持っている

- ・ R 6 年度：辰野町 85% 全国 82.4%
 ・ R 5 年度：辰野町 84.4% 全国 81.5%
 ・ R 4 年度：辰野町 77.9% 全国 79.8%
 ・ R 3 年度：辰野町 74.8% 全国 80.3%
- ・ R 6 年度：辰野町 61.2% 全国 66.3%
 ・ R 5 年度：辰野町 61.2% 全国 66.3%
 ・ R 4 年度：辰野町 61.6% 全国 67.3%
 ・ R 3 年度：辰野町 67.9% 全国 68.6%

- 特にR 4年からの2年間、自己肯定感が高く、付随して「いじめはいけない」「人が困っていると進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「将来への夢を持っている」等が、全国より高い傾向が見られた。一方、R 6年度は、中学生の自己肯定感こそ全国よりかなり低い、上記他の項目は昨年度までと同じようにほぼ高い傾向を示しており、引き続き健全な中学生と言える。このことから、今年度の中学生の自己肯定感が低いのは、「自分のよいところはどこ？ 何もないじゃん」と自分のよさを意識できていないのかもしれない。
- 「人が困っていると進んで助ける」、「いじめはどんな理由があってもいけない」は、全国より高く、「人の役に立つ人間になりたい」も全国と同レベルであることを思えば、「自分に誇りを持つ」、「自信を持つ」姿勢を堂々と持つことも大切である。一方、自己肯定感に関しては、全国の数値が年々上昇してきていることには注目したい。
- 「自己肯定感が高い・低い」は、先生方はじめ周囲の対応次第。先生方には引き続き、「肯定的なシヤワー」を常にかけていただきたいと願う。
- どの子も皆、必ずよいところがあるが、なかなか自分自身では気づかない。自己肯定感が高いと、生活にも張りが出て、不登校もなくなる傾向があると考えられる。改めて、小さなことでも「よいところ（できたとき）は褒める、認める」ことにより自己肯定感の醸成を図る気風を全教職員でつくり出していきたい。また、学校と家庭とが連携し、その子の良さや努力を認める声掛けをしていくことができればと思う。
- 「困った時や不安があるとき、先生や学校に相談できる」が今年は中学生では昨年度より 11 ポイントも下がってしまったことは要注意！（小学生は昨年度とほぼ同レベル）
- R 3年度の小学校6年生は、今年度の中学3年生
 - ・R 3とR 6とを比較すると、多くの項目で似た傾向が出ているが、各項目とも小学校時代低かった数値が、この3年間で共に全国を上回っており、3年間で大きく（健全に）成長ことが分かる。6年生時のその後の1年間の指導と中学校での指導・支援の成果と感謝したい。

(2) 学校生活

①「学校へ行くのは楽しい」

○小学生：辰野町 78% 全国 82.1% ○中学生：辰野町 79.2% 全国 83.8%

②「自分と違う意見について考えることは楽しい」

○小学生：辰野町 72.5% 全国 75.8% ○中学生：辰野町 74.1% 全国 76.2%

③「友達関係に満足している」

○小学生：辰野町 92.2% 全国 91.1% ○中学生：辰野町 92.9% 全国 90.1%

- 令和3年度に町教育委員会は、学校に対する教育委員会目標として、
 - ・児童生徒に対しては、「明日も行きたくなる学校」
 - ・先生方に対しては、「我が子も入れたくなる学校」を掲げ、一人一人の個性・特性を把握した上で成長を支援して行きましょう、と学校にお願いしてきた。
- これは、令和3年度までは、「自己肯定感の低さ」、「『先生はよいところを認めてくれる』の低さ」、があり、付随して「いじめはいけない」「将来の夢や目標を持っている」「学校へ行くのは楽しい」「思っていることをきちんと伝える」「友達と協力するのが楽しい」「自分と違う意見について考えることは楽しい」等も、特に小学校で低かったことから、この部分を何とか上げたいとの思いと、コロナ禍で、「家に閉じこもる生活・学校に来なくてもいいよ」という雰囲気から、このままでは『子供の心と体が壊れてしまうという危機感』から『とにかく学校に来ましょう』という思いから設定したものである。
- 町内小・中学生は、「友だち関係に満足している」割合が全国を小学校で1ポイント、中学生では3ポイント近くも上回っており、引き続き友人関係が良好な子供が多く、8割近い児童生徒が、

楽しく学校へ行くとしている点も、ありがたい。一方 2 割の子はそうでもないと回答しているところは注意を要する。

- 「学校へ行くのは楽しい」とする回答は、昨年度は過去にないほどの高さであったが、今年度は小学校で 8 ポイント、中学校で 4 ポイント下がり 80%を切り、小・中学生共に全国を下回っている。原因を探らなければならないが、「友だち関係に満足している」は、小・中共に 90%を超えており、昨年度よりむしろ高く（昨年度小学校は 89.8%、中学校は 92.2%）、全国を上回っている。引き続き良好な人間関係が築かれているものと理解したい。

・楽しい学校とは、自分が認められ、授業も分かり心が満たされた学校。先生方が常に良い声掛けをして、自信が持てるようになれば、児童生徒はさらに大きく変わっていくものと思う。

- さらに子供にとって「居心地よい学校・学級になっているかどうか」「我が子も入れたくなる学校・学級」であるかどうか、先生方一人一人考えてみたい。【教育委員会の究極的目標】

- 私たちは改めて自己肯定感が高まる支援や指導を行って行くことを確認したい。

(3) 地域との関わり

①「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」

○小学生：辰野町 74.8% 全国 83.5% ○中学生：辰野町 76.2% 全国 76.1%

- 辰野町の特徴の一つともいえる地域との関わりである。

○従来から、地域との係わりはよいが「地域のことを考えられる子供」は、例年思ったほど高くない。そこで地域の方々には、「周り（地域）が全てお膳立てを行なって、お客様にしないように」、「もっと子供に考えさせる」、「最初からやらせる体験」を意図的に仕組みましようとお願ひしてきた結果が表れたのか、徐々に年々向上してきているがまだまだ道半ばである。

- この調査は 4 月実施である。今年度も多くの地域ボランティアの方との学びが小・中学校とも行われているので、仮に 2 学期末に同調査を実施すれば、小・中学校ともかなり高くなるものと考えられる。中でも中学 3 年生は、「ほたるの里中学生議会」に向けた活動を行っているので、70%台ではなく、もっと上がることも考えられる。

3 学校での学び

(1) 級友との協働の学び、学級での学び

- 児童生徒が、級友等との関わりの中で学びを深め、協力して課題に取り組む姿や、学習した内容を次の学びや生活に生かそうとしている姿は比較的良いと考えられる。

○学習に向かう際、自分なりの問いを持ち、課題解決に向かう姿勢が出てくればよいが、これは教師側の授業に大きく影響される。児童生徒は、授業が自分の考えに合っている、教材や学習時間も自分に合っていたと評価しているので、より主体的かつ協働的な学びができるような授業改善が求められる。これから、令和の日本型学校教育が目指している「個別最適な学び」、「協働の学び」実現のために、主体的な学び、級友と共に情報収集を行ったり、情報交換を行ったりしやすい授業になるよう教師側の一層の授業改善に期待したい。

- 「総合的な学習の時間」は、自ら課題を見出し主体的に取り組む姿勢が弱く、先生方がお膳立てをし、ルールの上をただ走っている感も伺える。総合的な学習の時間においても子供たちに事象と対面させ、子供自身に課題を見つけさせるところから始めても十分に堪えられるはずである。総合的な学習の時間は、教科学習の集大成でもある。

○この 3 年間の結果からもわかるように、町内の子供たちは、主体的に学び合う素地が十分に備わっているので、ルールも子供たち自ら敷くことができるよう配慮したい。

- 現行学習指導要領の「主体的・対話的・深い学び」のための、「個別最適な学び」と「協働の学び」

とはどういう学びなのかを教師側がしっかり理解し、「教師主体・教師主導」から「子供主体、個に応じた指導・支援」へ授業改善を図ることができるかにかかっているといえる。

(2) 各教科の学びについて

① 「国語は好き」

○小学生：辰野町 63% 全国 62%

○中学生：辰野町 57.6% 全国 64.3%

② 「国語の勉強は大切である」

○小学生：辰野町 92.2% 全国 94.5%

○中学生：辰野町 94.9% 全国 93.9%

③ 「国語の内容はよくわかる」

○小学生：辰野町 83.6% 全国 86.3%

○中学生：辰野町 84.2% 全国 82.7%

④ 「国語は将来、社会に出たとき役に立つ」

○小学生：辰野町 90.5% 全国 93.2%

○中学生：辰野町 92.1% 全国 90.6%

⑤ 「算数(数学)は好き」

○小学生：辰野町 68.5% 全国 61%

○中学生：辰野町 53.2% 全国 57.2%

⑥ 「算数(数学)の勉強は大切である」

○小学生：辰野町 95.3% 全国 94.6%

○中学生：辰野町 84.9% 全国 87.2%

⑦ 「算数(数学)の内容はよくわかる」

○小学生：辰野町 89% 全国 82.1%

○中学生：辰野町 83.4% 全国 75.7%

⑧ 「算数(数学)は将来、社会に出たとき役に立つ」

○小学生：辰野町 94.5% 全国 94.1%

○中学生：辰野町 79.8% 全国 78.5%

⑨ 「理科は好き」

○小学生：辰野町 93.7% 全国 83.6%

○中学生：辰野町 71.9% 全国 68.3%

⑩ 「理科の授業では自分の予想を基に観察・実験の計画を立てている」

○小学生：辰野町 81.9% 全国 86.2%

○中学生：辰野町 74.1% 全国 71.5%

4 家庭学習及び家庭生活

(1) 幸せな気持ち……「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」、昨年度から新たに挿入された設問。91.3%の小学生、89.9%の中学生が当てはまると回答、極めて高いが、1割近い子供がそうは思わないという事実は十分意識して対応して行く必要あり。

(2) 学習の時間……「1日当たりどの位勉強をしているか」、以前「全くやらない町内小・中学生」として大きな課題であったが、ここ数年、小・中学生共に改善されてきているがまだまだ。

平日、家庭学習に費やす時間は、小中学生とも1日2時間以上・3時間以上という長時間学習している児童生徒は、以前より増えてきてはいるものの、まだ課題はある。

小学生の場合、平日「3時間以上」家庭学習を行う児童は、全国平均11%に対して町は6.3%、2～3時間の児童も合わせて「2時間以上」学習する児童は全国平均23.5%に対して辰野町は11.8%であり大きく下回っている。

一方、全くやらない児童の割合は、0.8%で、昨年度の1.5%、一昨年度の2.5%と比較すると大きく減少している。しかし30分以内の子も21.3%もいることは課題として残る。

(全くやらない割合は全国で5.3%、全国と比較しても少ない。)

中学生の場合、平日「3時間以上」家庭学習を行う生徒は、全国平均9.2%に対し、辰野町6.5%。2～3時間の生徒も合わせて「2時間以上」学習する生徒は全国平均31.7%に対し町は22.3%であり、大きく下回っている。中学生ならば2～3時間以上はほしい。

一方、「全くしない」「30分以下」という生徒は、全国平均17%に対し、辰野町は15.2%とほぼ全

国と同レベル、しかし 15%の生徒が30分以下の学習となっている。いずれにせよ、家庭学習のあり方が問われており、具体的な支援策が必要である。

(3) TVゲームやSNS、PC等について、

① 平日、ゲームに費やす時間 (テレビゲーム、スマホゲーム、PCゲーム等)

○小学生の場合、平日「3時間以上」ゲームを行う児童は、全国平均 17.7%に対して辰野町は 7.1%、2～3時間の児童も合わせて「2時間以上」ゲームを行う児童は全国平均 30.3%に対して辰野町は 20.5%であり大きく下回っている。しかし平日としては多すぎる。

一方、全くやらない児童の割合は、辰野町が 11.8%、全国が 8%である。(県は 10.6%)

「30分以下」という児童も、辰野町は 18.1%、全国は 17.7%である。

○中学生の場合、平日「3時間以上」ゲームを行う生徒は、全国平均 16.6%に対し、辰野町 9.4%。2～3時間の生徒も合わせて「2時間以上」ゲームを行う生徒は全国平均 29%に対し辰野町は 18.8%であり、やはり大きく下回っている。しかし平日としては多すぎる。(県は 19.8%)

一方、「全くしない」生徒の割合は、辰野町が 12.2%、全国が 11.2%である。(県は 13.5%)

「30分以下」という生徒も、辰野町は 17.3%、全国は 11.2%である。

② 平日、SNSや動画の視聴

○小学生の場合、平日「4時間以上」SNSや動画の視聴を行う児童は、全国平均 11.9%に対して辰野町は 4.7%、3～4時間の児童も合わせて「3時間以上」視聴する児童は全国平均 28.7%に対して辰野町は 9.4%であり大きく下回っている。しかし多すぎる。(県平均は 13.5%)

一方、30分未満の児童の割合は、全国が 14.6%に対して辰野町が 12.6%である。(県は 15.1%)

携帯やスマホを持っていない児童は、全国は 21.1%に対して辰野町は 37%である。(県は 28.4%)

○中学生の場合、平日「4時間以上」SNSや動画の視聴を行う生徒は、全国平均 18.2%に対し、辰野町 15.1%。3～4時間の生徒も合わせて「3時間以上」視聴を行う生徒は全国平均 32.5%に対し辰野町は 29.5%であり、やはり下回っている。しかし小学生同様多すぎる。(県は 22.9%)

一方、30分未満の生徒の割合は、全国が 5.8%に対して辰野町が 7.2%である。(県は 7.3%)

携帯やスマホを持っていない生徒は、全国は 3.4%に対して辰野町は 9.4%である。(県は 7.6%)

③ 携帯やスマホ、PCの使い方について家人と約束を守っている

○小学生の場合、きちんと守っている児童は、全国平均 39.4%に対して辰野町は 34.6%、大体守っている児童も合わせると、全国平均 71.1%に対して辰野町は 63.7%でありやや下回っている。

一方、守ってはいない児童の割合は、全国が 0.9%に対して辰野町は 0.8%である。(県は 0.7%)

あまり守ってはいない児童も併せて「守ってはいない」児童の割合は、全国が 5.4%に対して辰野町は 8.7%である。(県は 5.1%)

○中学生の場合、きちんと守っている児童は、全国平均 34%に対して辰野町は 32.4%、大体守っている生徒も合わせると、全国平均 72.2%に対して辰野町は 67.7%でありやや下回っている。

一方、守ってはいない生徒の割合は、全国が 1.3%に対して辰野町は 0%である。(県は 1.1%)

あまり守ってはいない生徒も併せて「守ってはいない」生徒の割合は、全国が 6.9%に対して辰野町は 5%である。

○「幸せな気持ちになる」は、100%近くの値でありたい。子供たちは、周囲からの愛情をいっぱい受けて健全に成長して行くものであるが、ヤングケアラーが疑われる事実もある以上、「ヤングケアラー的視点」からも子供たちを複数の目で見えていく必要がある。

○数年前まで、家庭学習が極めて少ない実態があったが年々改善されてきている。しかしまだ学習時間としては少ない。もっともその中身も重要であり、単に宿題のみであるとすると自分に生きたものとはなりにくい。学校が「宿題」という言葉を使わず、「家庭学習」とした意味もしっかり考えさせる必要がある。自分の得意を伸ばす、弱点を克服する、授業内容の定着を図るための復

習をしたりする学習の場としたい。1日30分以内という子は、まさに宿題のみであろう。

- 授業の予習や復習ができる意識付けを行うためには、授業改善が必要（「もうちょっと調べてみよう・復習しよう」、「明日の授業の下調べをしよう」という意識が生まれるように）。
- 中学生の中には、学習そのものを投げちゃっている生徒はいないだろうか。日々の授業の中でも1時間中ただ伏せている生徒はいないだろうか。
- 今日の子供たちにとっては「ゲームなしの生活」は考えられない。平日1日2時間以上、3時間以上行っている子の割合は、全国と比較すれば極めて少ないものの多すぎる！ ルールを設け、節度を持って楽しくゲームを行っていただきたいと願う。
- 携帯やスマホ、SNS等での動画の視聴も、子供の世界では当たり前になっている。3時間以上視聴する子は、小学生・中学生共全国と比較すれば少ないが、中学生はゲーム同様多すぎる。
- 携帯やスマホ、SNS等を持っていない子は、小・中学生共全国と比較すれば少ない。
- 携帯やスマホ、PCの使い方についての約束を守っている割合は、小学生が全国平均を下回ってはいるが、所持していない子供の割合が全国より高いので何とも言えない。中学生では、全国より低い。ただ、少数ではあっても、ゲーム・動画の視聴が長時間にわたっている状況は好ましくない。ゲームや携帯、スマホ、SNSに潜む危険性について保護者への一層の啓発が必要。